

## 令和7年度冬季休業前校長挨拶

全校生徒の皆さん、こんにちは。冬季休業を迎えるにあたり、一つお話をします。今回はテレビから学んだことについてです。

皆さんは「サンドウィッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん」という番組を知っていますか。この番組は、突出した知識や並外れた好奇心をもつ子ども＝博士ちゃんが先生役となり、大人に対して授業を行うというのですが、その特別編として5月に「世界遺産サグラダ・ファミリア SP」が放映されました。今回の学びはこの番組内でおこなわれたサグラダ・ファミリアの主任彫刻家である外尾悦郎さんに対して芦田愛菜さんが行なったインタビューからのものとなります。

スペイン・バルセロナにある「未完の世界遺産」として知られるサグラダ・ファミリア。その建設の中心人物が「ガウディの意思を受け継ぐ者」として知られる外尾さんなのです。1882年に着工され、ずっと建設を続けてきたものの、完成不可能とされていたサグラダ・ファミリアも、2026年にはイエスの塔が完成し、2034年には全体が完成すると言われています。しかし外尾さんは「完成」について、以下のようにお話しされています。

「“完成”という言葉はみんな普通に使っているけど、ちょっと前まで“完成”という言葉はそんなに使われていなかった。本当の完成品はこの世にはない。少なくとも人間の作るものには、“完成”という言葉は少し考えた方がいい。」

この言葉を聞いてどう感じましたか。外尾さんは、人間がつくるものが「完全に仕上がる」ことはないと言っているのです。長年サグラダ・ファミリアの建設に携わってきた方の言葉には、重みがあります。ここで「人間がつくるもの」を「人間」に置き換えてみましょう。そうすると「人間」もまた、完成することはないということになります。

私たちは何かを成し遂げた時に、まるで自分が完成したかのように感じます。しかし、それは錯覚なのです。完成したと感じた地点から、さらに気の遠くなるような長い道が続いている。これが実態です。自分が完成したと思えば、歩みを止めてしまいます。するとそこで進歩が止まってしまいます。本当はまだまだ先に道があるのに、進むことができなくなるのです。

外尾さんの言葉を聞いて、思い上がることなく、常に前を見て、はるか遠くにある「完成」に向けて歩み続けなければならないと心を新たにしました。「完成」まではたどり着けなくても、最後までそこに向けて歩みを止めないことの大切さを学びました。私も皆さんも、謙虚に自分を見つめて、さらに前に進んでいきませんか。

外尾さんのインタビューでは、他にも印象に残る言葉がありました。「もしも作りたい本当に大事なものがあつたら、それを作る方法がなくても、それを作るために方法を考える。」これは、前例にならうだけではなく、自分で道を切り開いていくことの大切さを教えてくれる言葉でした。さらに、職人の存在意義として、「作ったものが役立つことが目的で、自分を売ることは目的じゃない」と仰っていました。

た。自分を目立たせることが目的ではなく、他の人の役に立つことが目的であるということは、まさに利他の心を表しています。やはり利他的に生きることは大切なのですね。

最後になりますが、全校生徒がそろそろ集会も今年度はこれで最後となります。1年生の皆さん。平岸高校で学ぶことの意義を感じることはできましたか。2年生の皆さん。自分の興味関心を広げ、そのことに積極的に取り組むことはできましたか。そして3年生の皆さん。より広い世界に踏み出す準備はできていますか。

平岸高校で学ぶ皆さんにとって、来年がより飛躍する年となることを強く願っていることをお伝えして私の挨拶とします。

令和7年12月19日

市立札幌平岸高等学校長 中井 勝広